

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。 ②事業所独自の理念が作成されている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	①管理者は職員に理念を周知させ、共有化するための取り組みを行っている。 ②職員は理念の意味を理解し、申し送り、ミーティング、あるいは日々のサービス提供場面で反映させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①事業所内に利用者や家族等が見やすいように理念を掲示している。 ②事業所利用時には、理念を利用者や家族に説明している。 ③理念をパンフレット等の利用案内時の説明文書に明示している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	①事業所の立地する地域の町内及び民生委員等の地域資源に関わりながら、事業所を理解してもらおうと共に、交流を図るための働きかけを行っている。 ②見学や認知症に関する相談、実習生等を受け入れ、地域との交流に積極的に行っている。 ③外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーには、十分配慮している。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①サービス評価の意義・目的、評価の狙いや活用方法等を全職員に周知する取り組みを行っている。 ②外部評価の結果を踏まえ、改善策の検討や改善に向けての具体案の検討や実践に繋げるための努力をしている。		
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加を促す取り組みを行っている。 ②会議では、自己評価や外部評価の結果を基にした改善策等について報告し、意見交換を行い、サービスの質の確保・向上に繋げている。		
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①市町村へホームの広報誌等を配布している。 ②ホームの実態等を理解してもらうために、自己評価や外部評価の結果を提出し、報告を行っている。 ③必要に応じて利用者の利便性の向上等、生活の質を高めるための課題解決に向けて、行政との連携を図っている。		
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	①管理者は権利擁護事業や成年後見制度の概要について理解している。 ②職員は内部研修等の実施を通じて権利擁護事業や成年後見制度の理解を深める取り組みを行っている。		
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める努力をしている。 ②管理者は、職員の日々のケアの提供場面を観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約時には、利用者家族等に事業所の理念等、ケアの方針や取り組みについて説明すると共に退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。 ②契約時には、利用者や家族等の疑問や意見を引き出す働きかけを行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①意見等を上手に表すことができない利用者に対して、利用者の言動から本人の不満や意見を察するよう取り組んでいる。 ②出された意見や苦情等を検討し、速やかな対応を行う体制が整備されている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	①利用者の暮らしぶりについては定期的に報告している。 ②利用者の金銭管理の状況について、母体施設が管理しており、出納帳等に記録し、定期的に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①家族等が意見や要望等を話しやすい雰囲気作りを行っている。 ②苦情受付窓口は、重要事項説明書で明示している。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①ミーティング等により職員の意見を聞くようにしている。職員から出された意見が反映されるようにしている。 ②管理者は職員の要望や意見を聞くように心掛けているが、不満や苦情は把握しきれていない可能性もある。	○  ①事業者の運営方法や利用者受入れ等の決定事項について、職員の意見等を聞く機会を設ける努力をする。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	①利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっている。 ②職員の急な休み等には代わりの職員を確保する体制が整えられている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①運営者や管理者、職員は担当職員の交代による利用者への影響を理解しており、異動や配置換え等において配慮している。 ②担当職員の異動や配置換えを行う際には、利用者には十分説明している。 ③新しい職員を配置する際には、利用者には十分説明している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①年間の研修計画を作成している。 ②研修受講の内容を日々のケアに活かせるよう、伝達研修を行う等、職員全員に周知させている。 ③研修受講の際は、日々のケアに支障を来たさないよう勤務体制等に配慮している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①運営者は、同業者との交流や連携の必要性を認識し、具体化するための方針を示している。 ②地域ケア会議に参加し、同業者との交流、情報交換等を行っている。 また、得た情報はケアの質の向上に還元している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	①運営者夜管理者が職員の悩みやストレスの背景を理解し、解消に繋げる取り組みを行っている ②職員の意見を聞きながら、休憩時間や休憩場所を確保するよう配慮している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	①運営者は、現場の状況の他、職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。 ②健康診断の実施等、職員の心身の健康を保つための体制を整えている。 ③就業規則があり、守られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①相談を受ける際には、利用希望者や家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。 ②サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族との面談する等、直接話しを聞く機会を設けている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要かを見極めている。 ②対応できることについては柔軟に実行している ③すぐに対応できないことに対しては方策を検討している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	①利用者・家族等、双方の意向に添ったサービス開始となるよう、十分に話し合いを行い、調整している。 ②利用者が安心してサービスできるよう、相談受付段階から利用者の視点に立った支援を行っている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	①職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。 ②支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが共同しながら和やかな生活ができるように場面作りや声掛けをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①職員は家族との情報交換を密に行うこと等により、これまでの介護経験やサービス中である現在についての家族の思いを把握している。 ②日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるため、家族と同じような思いで支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	①家族との関係が途切れないように、日々の利用者の様子を面会時や電話等で伝えたり、家族がホームに来やすいよう働きかけている。 ②利用者と家族との絆を大切とすると共に、家族の役割を奪わないような配慮を行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。 ②希望等に応じて、利用者にとってのなじみの場所に出掛けられるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	①職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。 ②支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが共同しながら和やかな生活ができるように場面作りや声掛けをしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	①職員は利用者同士が共に助け合い、支えあって暮らしていくことの大切さを理解している。 ②仲の良し悪し等、利用者の人間関係を把握している。 ③利用者が孤立しないような配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①職員は、利用者の思いや希望、意向を把握するよう努めている。 ②利用者の意向等が十分に把握できない場合は、全職員が利用者の視点に立って意向等を把握するよう努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①利用者の生活歴やライフスタイル、個性、価値観等、これまでの地域との関わり等を把握している。 ②利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者の背景に関する情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	①利用者の1日の暮らしや生活リズムを把握している。 ②日々の生活を通して、利用者の生活・心理面の視点や、利用者のできること、分かる力の把握に努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①介護計画作成にあたり、利用者がその人らしく暮らし続けることができるために、可能な限り利用者の意見を聞くよう努めている。 ②介護計画は、全職員の意見や気づきを基に職員間で十分に話し合い作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①介護計画の実施期間を明示し、実施期間終了後は見直しを行っている。 ②実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化等においては随時見直しを図るよう努めている ③利用者の状態や利用者及び家族等の希望に変化がないか、常に観察や把握するよう努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等について具体的な記録をしている。 ②日々のケアの実践状況や職員の気づきを記録している。 ③記録の内容を全職員が共有することができる仕組みを整えている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。 ②利用者や家族等、地域からのニーズに応じて、新規事業の実施や自主サービスの開発・実施ができていない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	①利用者が寄り安心して暮らせるように、警察署や消防署等からの協力が得られるよう働きかけを行っている。 ②地域の民生委員等の存在を把握し、協力を呼びかけている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	①事業所以外のケアマネジャー等との連携が図れていない。 ②利用者の状況に応じて配食サービスや理美容サービス等を利用できるような支援が図られていない。	○	①必要に応じて、事業所以外のケアマネジャー等との連携を図るよう努力したい。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	①利用者を長期的にケアしていくために、必要に応じて地域包括支援センターと協働しながら関係機関等との協力体制の構築に努めている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。 ②定期的な受診の他、体調変化や心配ごとのある時には、気軽に相談することができる。 ③通院方法や受診結果の伝達方法は、利用者や家族等の共有が図られている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	①認知症の人の医療に熱心で、利用者一人に応じた指示や助言をしてくれる医師の確保ができています。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	①看護師の資格を持った職員の配置の確保ができていない。 ②訪問看護ステーションとの連絡体制が整えられていない。	○	①看護師の資格を持った職員の配置の確保に努力したい。 ②訪問看護ステーションとの連携体制を整える努力をしたい。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	①入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。 ②退院に向けた支援体制について、家族も含めた話し合いを行う体制が整えられている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①重度化や終末期に対応していないが、日常的な健康管理や急変時の対応について利用者や家族等と話し合いを行い、意思統一を図っている。	○	①利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしていくよう努力したい。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	①重度化や終末期には対応していない。	○	①利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしていくよう努力したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	①全職員は、利用者が別の場所に移り住むこと によるダメージを理解している。 ②ダメージを最小限とするために、家族等の協力 を得られるよう働きかけている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	①利用者の言動を否定したり、拒否していない。 ②介助時や声掛け時は、利用者の羞恥心に配慮し ている。 ③利用者のプライバシーに配慮して業務を行って いる。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	①利用者との日々の関わりや家族等から情報によ り、利用者の希望や関心、嗜好等を把握してい る。 ②利用者の力量に応じて、自己決定を促す場面を 積極的に作っている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	①利用者の言動を急かしていない。 ②業務を優先して利用者の訴えを後回しにしてい ない。 ③利用者のペースやその日の希望、身体・精神状 況に合わせた柔軟な支援を行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	①利用者の個性や希望等を尊重し、利用者の好み で衣服を選んだり、おしゃれができるよう支援 している。 ②衣類や整容の乱れには、さり気なくサポートし ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①利用者の状況や意思等に応じて、調理の準備や後片付け等を促し、職員も一緒に行っている。 ②食べこぼし等へのサポートを行いながらも、利用者との会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	①利用者の嗜好品を把握している。 ②利用者の状態に配慮しながら、嗜好品を暮らしの中に取り入れている。 ③嗜好品を取り入れる場合は、利用者の安全確保や他の利用者に迷惑がかからないように十分配慮している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①パターンに応じて事前誘導を行う等、自立に向けた支援を行っている。 ②尿意や便意の確認時、誘導時、失禁等の対応は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、他利用者に気付かれないよう速やかに行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①職員は、入浴に対する利用者の羞恥心や負担感を理解した上で支援している。 ②入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けや対応等の工夫を行っている。 ③利用者の習慣等に配慮しながらも、浸かりすぎや洗身等に対して適切な支援を行っている。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	①一人ひとりの睡眠パターンを把握している。 ②眠れない利用者については原因を見極め、本来のリズムを取り戻せるよう、1日の生活リズムを整えるよう支援している。 ③必要に応じて、家族や医療機関と相談しながら眠剤の服用等について調整を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①利用者の生活歴や希望、力量等を把握している ②利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①職員は、利用者自らが金銭管理を行うことの重要性を理解している。 ②利用者の力量や希望、家族の希望等に配慮しながら、利用者自らが金銭管理を行えるよう支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	①利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、日常的に外に出る機会を作っている。 ②利用者の身体状況に合わせて、移動方法や移動距離に配慮した支援を行っている。 ③利用者のその日の状態に合わせた支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①利用者が行きたい場所を把握している。 ②利用者から行きたい場所の希望が出されない場合には、職員の働きかけにより話してもらえよう取り組んでいる。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①会話内容や手紙の内容が他利用者に知られないよう、プライバシーに配慮している。 ②利用者が電話をかけたり、手紙を出す場合にはその利用を支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①家族等の訪問時には声掛けを行なう等、過ごしやすい雰囲気作りを行っている。 ②利用者と家族が落ち着いて過ごせるような場所に配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解している。 ②身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアを提供している。 ③やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等に説明を行い、同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①日中は玄関に施錠しない等、利用者が自由に入 入りにできるよう工夫している。 ②外出傾向を察知できるよう見守り等を行っている。 ③近隣に民家はないが、法人内で協力体制を整え 無断外出時の対応に努めている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	①昼夜共に、職員は利用者を見守りやすい場所 にいて、利用者の様子を把握している。 ②職員は、利用者と同じ空間で記録等の事務作 業を行いながら、さり気なく全員の状況を把握す るよう努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	①利用者の状況に照らしながら、厳重に保管す べき物、保管管理が必要な物、利用者が使う際 に注意が必要な物に分けて管理している。 ②利用者の手の届かない、かつ目に付かない保 管方法となっている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	①現在の利用者の状況に応じて、想定される事 故を職員間で検討している。 ②ヒヤリハット・事故報告書の様式が整備され ている。 ③事故等の発生時には報告書を作成すると共に 再発防止に向けた話し合いを行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	①夜間対応も含めて、緊急時対応マニュアルが 作成されている。 ②全職員が応急手当や救急救命の研修を受講し ている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている	①日中だけではなく、夜間も想定した具体的 な避難訓練が行われている。 ②消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路 の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的 に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	①利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握すると共に、その対応策を家族に説明している。 ②起こり得るリスクや対応策について、利用者の状況変化等に応じて適宜見直しを行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	①一人ひとりの持病やアレルギーの有無、留意事項を把握している。 ②変化や異変の兆候があった場合には記録に残すと共に全職員で共有し、必要に応じて医療受診に繋げている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①全職員が全利用者の薬の内容を把握できるようにしている。 ②服薬時には本人に手渡し、きちんと服用できているかを確認している。 ③薬の変更時は速やかに全職員に周知している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①1日の食事や排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行っている。 ②下剤や洗腸等を使用している場合には、個々に合わせた使用量と頻度となっており、安易に薬に頼らない工夫を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①口腔内の手入れの必要性を全職員が理解している。 ②毎食後、口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行っている。 ③声掛けや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①栄養バランスに配慮した献立となっている。 ②1日の総摂取カロリーを概ね把握している。 ③必要に応じて、食事や水分摂取量を記録している。 ④栄養士等から指導・助言を得られる体制となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	①感染の予防・早期発見・対応マニュアルが作成されている。 ②マニュアルは必要に応じて見直しを行っている ③利用者及び家族に同意を得て、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①台所や調理用具等の清潔を保持するための具体的なマニュアルや手引書等を作成し、それに基づいて実行している。 ②マニュアルや取り決め等は全職員に周知されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①訪問者や利用者の視点に立って、事業所に入りやすい雰囲気作りを行っている。 ②明るい雰囲気の玄関になるように、花を生けたりして季節感を演出している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①調度品など、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮している。 ②職員がたてる物音や声は騒がしくない。 ③テレビや音楽等の音量は適切である。 ④陽射しや照明等、室内の明るさは適当である。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共用空間に利用者が一人で過ごせる場所を確保していない。 ②入居者同士で団らんでできるスペースが確保されていない。 ③喫煙場所を確保できる体制となっている。	○	①仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作る努力をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	①入居前から使用していたり愛用していた物等、 馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に積極 的に働きかけを行っている。 ②居室への持ち込みが少ない場合には、利用者の 意向を確認しながら、職員と利用者が一緒に一 人ひとりに合った居室作りを行っている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	①臭いや空気のだよみがないよう、事業所内の換 気を定期的に行っている。 ②事業所内に温・湿度計を設置し、適宜確認をし ながら適切な温・湿度管理を行っている。 ③利用者に合わせた温・湿度調節を行うよう配慮 している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	①利用者の安全を考慮し、要所に手すり等の福祉 用具を設置している。 ②生活空間で転倒につながる原因がないか観察し ている。 ③利用者の活動性を維持するために、必要に応じ て車椅子等を用意している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	①場所の間違いを防ぐために、利用者一人ひとり の状態を把握すると共に、目印の設置の必要性 を見極め、必要な場合には個々に合わせた表示 を付ける等の取り組みを行っている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	①庭に花を植えたり、利用者が日常的に楽しみ ながら活動できるような環境を作っている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①事業所を活かす役割として  
組織で処遇に対する年間計画の冊子(マニュアル)を作成し、毎年職員会議を開催し、全職員の共通理解を図っている。
- ②利用者の地域支援として  
地域や地域の方々に事業所の役割や機能をアピールする点で、夏祭りや地域で行う文化祭等に参加している。
- ③利用者の支援として  
面会のほか、利用者と家族の触れ合う機会を設けるため、面会行事(収穫感謝祭・弥生の集い等)を実施している。
- ④災害対策として  
毎月1回、避難訓練を実施し、うち2回は消防署立会いのもと、指導を受けている。  
8月には夜間避難訓練を実施し、日頃から災害に対する体制を整えている。